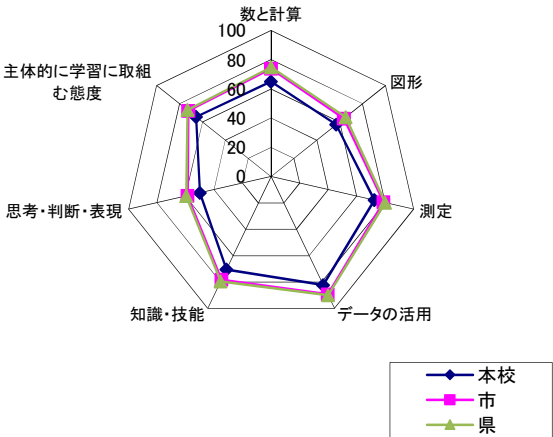


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.0	73.8	74.8
	図形	56.9	63.7	65.3
	測定	72.5	78.9	80.1
	データの活用	82.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	70.5	78.3	79.5
	思考・判断・表現	50.0	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.6	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●分数に関する設問では、正答率が県平均正答率を10ポイント以上下回っている。また、かけ算やわり算の計算の正答率が県平均正答率を下回っており、基礎的な計算の仕方の定着に課題が見られる。 ●整数－小数第一位の設問では、正答率が40.0%と低く、課題が見られる。	・基礎的な計算の仕方の定着を図るため、朝の学習の時間を活用して復習したり、AIDリルで当該学年以前の学習内容に取り組んだりする。 ・小数や分数に苦手意識をもつ児童が見られるので、小数や分数の意味の概念について繰り返し指導するとともに、日常生活の中で小数や分数を扱い、理解を深められるようにする。
図形	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○二等辺三角形を作図する設問では、正答率が8割を上回った。 ●球がぴったり入った箱の辺の長さから、球の半径を求める設問では、正答率が53.6%で、県の平均より10.8ポイント下回っている。 ●円の半径とコンパスの使い方についての設問では、正答率が61.8%で、県の平均より13.4ポイント下回っている。また、円の中心と円周上の2点を結んでできる二等辺三角形についての設問では、正答率が10.0%と課題が見られた。	・図形の作図の仕方を学習する際には、一つの描き方だけでなく、さまざまな条件で正確に描けるように指導を行う。 ・円や球の半径や直径、中心などの用語と意味、コンパスの使い方を復習するとともに、球が箱にぴったり入るときの箱の長さが表す意味を確認して問題に取り組めるように指導を行う。 ・記述式の設問に対して苦手意識をもつ児童が多く、無回答の児童が3割以上見られた。日頃から自分の考えやその理由を考えて表現する活動を取り入れていく。
測定	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○地図から道のりを求める設問では、正答率が8割を上回った。 ●はかりの目盛りの読み方を求める設問では、正答率が75.5%で、県の平均より11.0ポイント下回っている。また、身近にあるものの重さを推察し、適切な単位を求める設問では、正答率が60.9%と課題が見られた。	・長さや重さの学習では、授業に体験的な学習を取り入れ、日常生活と関連付けて理解が図れるように指導を行っていく。特に、重さの学習では、具体物の重さを実感させながら測定する活動を取り入れ、重さの感覚を身に付けられるように指導していく。また、1目盛りの大きさの異なるはかりを用いて重さを測るなど、目盛りの読み方の習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○棒グラフに関する設問では、正答率が8割を上回った。	・グラフの値の読み取りでは、1目盛りの大きさが1以外の様々なグラフの読み取りに取り組み、習熟を図っていく。